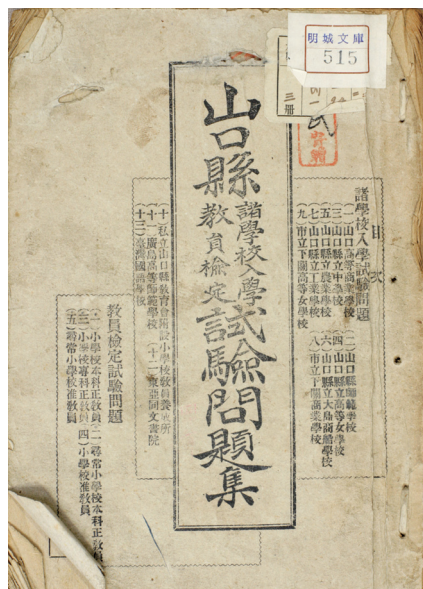
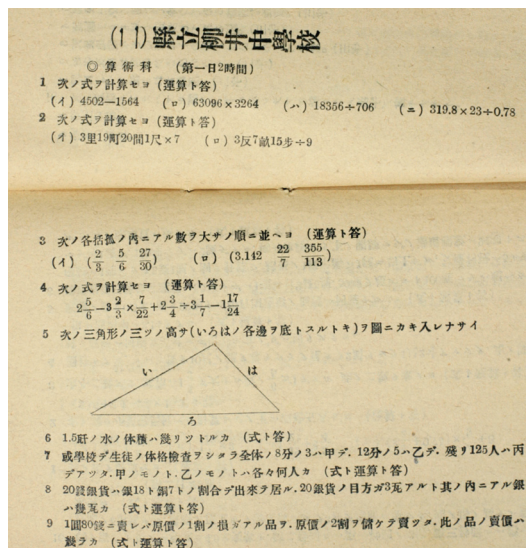


学校教育の普及（戦前の試験問題）



* 滝口明城文庫515「山口県諸学校入学教員検定試験問題集（合綴）」



* 滝口明城文庫521「山口県諸学校入学試験問題集 大正15年度」

解説

1907（明治40）年、わが国における小学校の就学率は97%に達しました。学校教育が普及するにつれ、人々の上級学校への進学熱が次第に高まり、それに対応して、受験のための参考図書が出版されました。当館には、明治時代後期から昭和前期にかけての県内諸学校の試験問題集があります。上の写真は1904（明治37）年～07年の試験問題集（合綴）で、これにより、県内の各学校で当時どのような試験が行われていたかわかります。また、これと併せて当館所蔵の当時の教科書を見ると、どのようなことが学校で教えられていたかを知ることができます。

1936（昭和11）年の問題集（滝口明城文庫522「山口県諸学校入学考査試験問題集 昭和11年度」）の冒頭に次のような文章があります。「現時、都市小学校に於ける一の大きな問題は如何にして上級学校へ進学せしむるかといふことである。口に道德教育国民教育を高調しながら裏面に一つの悩みをもつことは何れも否定出来ないことと思ふ。」

当時も現在と同様に、理想的な教育と受験のための学習指導との間で、板挟みになる現実があったようです。